



平成 25 年 2 月 13 日

各 位

ドリームバイザー・ホールディングス株式会社
代表者 代表取締役社長 奥山 泰
(コード番号:3772 東証マザーズ)
問合せ先 アドミニストレーション部副部長 木村 健太郎
(電話番号 03-6661-9311)

平成 25 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の 業績予想との差異に関するお知らせ

当社は、平成24年8月10日公表の平成25年3月期第2四半期連結累計期間（平成24年7月1日～平成24年12月31日）の業績予想との差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、平成24年8月23日公表の平成25年3月期通期連結業績予想も合わせて変更いたしましたので、平成25年3月期通期連結業績予想の詳細につきましては、本日公表の「平成25年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

記

1. 平成 25 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想との差異 (平成 24 年 7 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	268	△48	△42	△40	△3,877.85
今回実績 (B)	241	△60	△55	△57	△5,573.26
増減額 (B-A)	△27	△12	△13	△17	
増減率 (%)	△10.1	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 平成 24 年 6 月期 第 2 四半期	258	△68	△68	△65	△7,361.84

(注) 1. 当連結会計年度は、決算期変更により、9カ月決算のため、平成24年7月1日～平成25年3月31日までであります。詳細は、「決算期変更に伴う連結業績予想の修正に関するお知らせ」(平成24年8月23日公表)をご参照ください。

2. 「前回発表予想 (A)」「今回実績 (B)」における「1株当たり当期純利益」は、平成24年7月1日～平成24年12月31日までの期中平均株式をもとに算出したしております。

2. 平成 25 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想との差異

以下の理由により、平成25年3月期第2四半期連結累計期間業績予想における売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益との差異が生じております。

(売上高)

金融証券市場ニュース及び投資支援アプリケーションの提供事業では、依然として厳しい事業の中で、期首予算の想定どおり、低調な推移となりました。新聞及び広告事業では、当第2四半期累計期間末に、かけてこそ販売部数の下げ止まり感が強まりましたが、当第2四半期累計期間の販売収入は、期首予算の想定を下回る結果となりました。また、期首予算で見込んでおりました、証券金融機関の顧客向けの新規案件による収入については、その受注が一部に留まったことが大きく影響し、期首予想の達成には至りませんでした。これに対して、その他では、IR支援事業において、当第2四半期連結累計期間では、上場企業のIR説明会による収入は、受託開催件数は期首予想を上回り、堅調に推移いたしました。出版事業においては、当第2四半期累計期間の後半に刊行した「金融証券人名録」の売上や事業報告書の受託制作による収入が、期首予算をやや下回る結果となりました。

(営業利益)

資産圧縮・経費節減の施策により固定費を削減したものの、上記売上高の減少により下回ったことによるものであります。

(経常利益)

上記によるもの以外に、当第2四半期連結累計期間において、第3回新株予約権並びに第4回新株予約権の発行並びに権利行使により交付する新株式発行にかかる諸費用（株式交付費）を営業外費用に計上したことによるものであります。

(当期純利益)

上記によるもの以外に、金融証券市場ニュース及び投資支援アプリケーションの提供事業において、収益性低下により回収可能性が低いとして判断し、当該事業に係るサーバ機器等の器具備品の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失として計上したほか、全社資産として保有する会員権の一部についても資産性がないと判断し、回収可能価額まで減額し、会員権評価損を計上したことによるものであります。

以上